

神奈川大学三浦半島宮陵会だより

第31号

発行者:神奈川大学三浦半島宮陵会 企画・広報委員会

2022年9月3日発行

事務局:横須賀市大矢部4-28-11

設立 15 周年記念号

令和4年度三浦半島宮陵会の集い開催

地域組織最高の57人が参加

令和4年度神奈川大学三浦半島宮陵会の集い「総会・講演会・懇親会」が7月2日、京急横須賀中央駅から徒歩5分の「横須賀市立勤労福祉会館（ヴェルクよこすか）」に57人が参加して開催された。

進行役の嶋田順子副会長（昭和47年短大卒）の司会で始まった1部の総会には会員48人が参加し、会則により矢澤基一副会長（昭和44年経済卒）が議長を務め、令和3年度事業報告、同収支決算報告・監査報告、会則の一部変更・追加（別掲）、令和4年度事業計画、同収支予算の5本の議案が内藤正久事務局長（昭和51年機械工卒）、久根口昭二幹事・会計担当（昭和59年法律卒）および砂川正夫会計監事（昭和44年経済卒）から提案され、いずれも承認可決された。

2部の講演会には52人が参加し、葭田英人・神奈川大学法学部教授が「人間第一の経営～会社とは何か?～」と題し1時間20分にわたり公園された。（要旨は3頁）

3部の懇親会は、コロナ対策を十分に行ったうえ、ケイタリング方式で3年ぶりに行った。これには7人の女性を含む51人が参加し、田原清彦副会長（昭和49年貿易卒）の司会で、鈴木和夫会長（昭和46年法律卒）の主催者挨拶。久保清治宮陵会会長、佐藤武神奈川大学理事長付審議役の両氏から来賓挨拶を頂き、初参加者6人の紹介の後、最年長の川瀬元夫さん（昭和31年経済卒90歳）が乾杯の音頭をとり、歓談が始まった。



参加者全員で記念撮影 2022.7.2 ヴェルクよこすか

ご挨拶

～会長/鈴木和夫～



会員並びに関係の皆様、本日は、コロナ禍の中「令和4年度神奈川大学三浦半島宮陵会の集い」にお越し頂きまして誠にありがとうございました。

令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止を目的とした「緊急事態宣言」の発令等を受け、総会等予定していた活動がほとんど中止に、令和3年度は、懇親会なしでの総会の開催となってしまいました。本年度は、感染拡大防止策を取ったうえで、懇親会も開催できることになりました。終息までにはまだ時間がかかると思いますが、「ウイズコロナ」を考えながら、健康第一で、明るく元気に活動して参りましょう。

2006(平成18)年6月24日、神大横浜キャンパスで鎌倉、逗子、葉山、横須賀、三浦の4市1町を対象とする地域で、三浦半島宮陵会の設立総会が開催されてから、早や16年が経過します。

お陰様で、前会長の古川氏をはじめ、皆様のご支援やご協力によって、今日まで、本会の目的である、卒業生会員相互の親睦を深め、母校ならびに宮陵会および地域社会の発展に、微力ながらも貢献が出来ているのではないかと考えています。どうか、今後ともご支援やご協力をよろしくお願い致します。

2021 年度収支決算報告(2021. 4. 1～2022. 3. 31)

科目	21 予算額	21 決算額	増減	備考
収入				
会費	150,000	227,000	77,000	
助成金	30,000	58,495	28,495	宮陵会
雑収入	50,000	71,662	21,662	祝金他
合計	230,000	357,157	127,157	
支出				
会議費	10,000	16,650	6,650	会場費

通信費	70,000	79,566	9,566	
印刷消耗品	30,000	29,142	-858	
雑費	100,000	104,855	4,855	謝礼他
合計	210,000	230,213	20,213	
収支差額	20,000	126,944	106,944	
前年繰越金	1,401,994	1,401,994	0	
次年繰越金	1,421,994	1,528,938	106,944	

- ・「三浦半島宮陵会ホームページ」で情報発信。
- ・「Twitter」、「LINE」を使って会員同士の情報共有。
- ・会員相互の親睦を図るために、ゴルフ同好会、歩こう会、テニス同好会、釣り同好会の行事を開催。

4. 現役学生や若い卒業生との交流を積極的に図り連携を深める
5. 役員会(4・9・12・3月の第2土曜日)を開催。必要に応じ臨時役員会を開催する。

2022年度収支予算(2022.4.1~2023.3.31)

科目	22 予算額	21 決算額	増 減	備 考
収入				
会費	115,000	227,000	-112,000	
助成金	30,000	58,495	-28,495	宮陵会
雑収入	50,000	71,662	-21,662	祝金他
合計	195,000	357,157	-162,157	
支出				
会議費	20,000	16,650	3,350	会場費
通信費	70,000	79,566	-9,566	
印刷消耗品	30,000	29,142	858	
雑費	100,000	104,855	-4,855	謝礼他
合計	220,000	230,213	-10,213	
収支差額	-25,000	126,944	-151,944	
前年繰越金	1,528,938	1,401,994	126,944	
次年繰越金	1,503,938	1,528,938	-25,000	

会則の一部変更・慶弔金規程を新設

総会におきまして、下記の通り、神奈川大学村半島宮陵会会則第2条の変更および第15条の細則として「慶弔金規程」を新設し、規定外事項を第16条とすることが決定しました。令和4年7月2日から施行します。

第2条(事務所の所在地) 本会は、事務局を神奈川大学三浦半島宮陵会事務局長宅に置く。以下変更なし

第15条(細則) 本会則に附帯する細則として、慶弔金規程を定める。

慶弔金規程

第1条(目的) この規定は、会費を納入している会員が死亡した場合に支給する慶弔金について規定するものである。

第2条(届け出) 慶弔金を受けようとする場合には、会員の家族等が会員の死亡を3か月以内に役員に届けなければならない。

第3条(慶弔金) 慶弔金として家族に10,000円を支給する。

第4条(規程の改廃) この規程の改廃は、役員会の決議を経て行う。

附則：令和4(2022)年7月2日に施行

2022年度事業計画

1. 親睦を深めながら母校の発展に寄与し、会員増強への基盤づくりを図る
 - ・箱根駅伝応援、公式野球部などの応援、会員のホームカミングデー、大学祭、大学主催の文化講演会、吹奏楽部定期講演会などへの参加を促す。
 - ・会員増強を図るため、当会エリアの65歳を迎えた非会員に対し、新年賀詞交歓会や総会の案内を郵送。女性の卒業生に対しては、女性同士の交流が図れるような企画を実施する。
2. 新年賀詞交歓会の開催(2023年1月下旬予定)
3. 広報活動の継続と地域同好会への支援
 - ・会報「三浦半島宮陵会だより」を9月と3月の年2回発行



総会の様子と司会を務める嶋田順子副会長

講演会開催

「人間第一の経営 ―会社とは何か?―」

神奈川大学法学部教授 葭田 英人 氏

- I 会社の起源
- II 会社法のトピックス
 - 1 株主総会
 - 2 社外取締役
 - 3 資本金制度
 - 4 内部保留
 - 5 内部統制システムと内部通報制度
 - 6 合同会社



III 人間第一の経営 ―会社とは何か?―

【講演要旨 / 原 柳作 (S46年英文卒 副会長)】

(今号では誌面の都合上、「会社の起源」のみを紹介します)

▼会社の起源

会社がはじめて起こったのは、当時地中海貿易の中心地であった古代イタリアである。当時の造船技術はチャチなもので、嵐で簡単に沈んでしまったり、船荷が海賊に奪われてしまったりした。そこで、貿易の買い手と売り手がリスクを負担しあうという合名会社のようなものが、その始まりである。

しかし、無限責任では一部の大金持ちしか投資できなかった。そこで登場したのが、一部の出資者は船長として航海に参加し、完全無限責任を負い、残りの人は出資額だけ責任を負うという合資会社であった。航海ごとに結成され、航海が終わると分け前を分配して清算されていた。

1602年オランダで設立されたオランダ東インド会社は、航海の都度、会社の設立・解散を行わない恒常的な組織としたことから、世界初の株式会社といわれている。

日本の最初の株式会社は、坂本龍馬が中心として1865年(慶応元年)に作った亀山社中といわれる。亀山社中は、薩摩藩や長崎の小曾根家が出資者となり、小銃や船を購入する最初の商社であった。

当時の貿易活動は大きな危険を伴うもので、航海が成功すれば大きな利益が得られるが、失敗すれば投資資金はゼロになるリスクを負っていた。現代の会社は当時ほど危険

ではないものの、確実ではない将来のリターンに対して、投資という意味では同じである。

2024年(令和6)に新1万円札の顔が福沢諭吉から渋沢栄一に代わる。渋沢は「近代日本資本主義の父」と呼ばれ、明治期に資本主義の本質を見抜き、500社以上の株式会社にかかわった人物として、現在につながる株式会社の創始者といえる。

株式会社を直接構成している出資者は、会社に対して出資を行い利益が生まれれば配当を得られるが、逆な場合は損失を被ることもある。経営者は出資者から委任され、会社を経営する権限と利益を確保する義務を負う。自ら下した経営判断については責任を負い、損失を発生させた場合は、出資者に対し損害賠償責任を負うこともある。従業員は、会社との雇用契約に基づき、個々の業務の成果をあげる義務を負い、それに対する賃金を得る権利を有する。

このように会社とは、立場の異なる人たちが、それぞれの権利・義務の上で責務を果たすことにより、利益を得、それを分配する存在である。



↑ 挨拶する久保宮陵会会長

↑ 挨拶する佐藤審議役



↑ 懇親会で初参加の方々よりご挨拶を頂きました

↓ 懇親会で初参加の方々よりご挨拶を頂きました。



↑ 挨拶する古川顧問と懇親会の様子



↑ エールを送る堀越監事

↑ 司会をする田原副会長



↑ 受付をする西脇・久根口幹事



三浦半島宮陵会同好会通信

活動状況を紹介します

● ゴルフ会世話人: 佐藤 武 (昭和46年経済卒)

メールアドレス: minami-sugar@nifty.com



連絡先: 090-3147-0105

オープンコンペは、卒業生に関わらず、どなたでも参加できます。ゴルフ好きの友人やご家族をお誘い合わせのうえ、気軽にご参加ください。

第44回三浦半島宮陵会オープンコンペが5月26日に葉山国際カンツリー倶楽部で2組7名の参加で開催されました。少人数の参加者でしたが、当日は風もなく23℃の5月らしい快晴のもと、和気あいあいとした雰囲気ですわやかな汗をかくことができました。

今回は少人数ということもありハンデ戦ではなく新ペリア方式で行われた。優勝は田原清彦氏、準優勝は鈴木和夫氏、3位は佐藤美佐男氏が受賞しました。

各賞としてニアピンは3ホールを対象として行われ、アウト8番が鈴木和夫氏、アウト4番、イン10番を佐藤美佐男氏が獲得しました。バスグロは田原清彦氏、BBは有川貢司氏でした。

表彰式では、ゴルフ会のキャプテンについて、長い間歴任された塚田さんが退任されることが報告され、新しいキャプテンには古敷谷さんをお願いすることになりました。また、現在のハンデの見直しや、今後の競技方式については引き続き協議することになりました。

次回は10月7日(金)、葉山国際カンツリー倶楽部を予定しています。会員の皆様そして会員のご友人など、皆様の多数の参加をお待ちしております。(田原清彦)



●テニス会世話人:小池邦夫(昭和38年機械卒)

メールアドレス: kichiemu@mbj.nifty.com



連絡先:090-8811-5079

テニス会の月例会は、毎月第3月曜日午後1時に葉山プレイモア・テニス・スクール(上山口バス下車)で行なっています。初心者歓迎です。

8月10日には3年ぶりに、コロナ感染拡大防

止策が整っている神奈川県箱根保養所に1泊し、町営仙石原テニスコートを利用して合宿を行いました。30度を超える暑さでしたが、高原のさわやかな風と、時々降ってくるミストのような雨で、身も心も絶好調になり、ナイス・プレーが続出し、現役復帰したプレーヤーも出現しました。来年はコロナ禍の終息を願い、長野県ハケ岳の富士見高原研修所を利用したいと思っています。(塩塚定雄)



●歩こう会世話人:内藤正久(昭和51年機械卒)

メールアドレス: naitoumasahisa@hotmail.com



連絡先:090-6479-3297

歩こう会は、会員の方々は勿論のこと、ご家族やお友達、ご近所の方々にも参加していただける楽しい会です。

今年度は10月22日(土)に「みなとみらいキャンパス見学会」を開催いたします。同封した「見学会のご案内」をご覧ください。多数の方々のご参加をお待ちしております。

●つり会世話人:塩塚定雄(昭和48年貿易卒)

メールアドレス: s.shiozuka@aria.ocn.ne.jp

連絡先:090-5581-1043

現在休止中ですが、神大教職員釣り部などとコラボで企画をしたいと思っています。企画が出来上がりましたらご案内しますので、是非ご参加ください。



15周年特集 会員・関係の皆様より（順不同）

設立15周年を祝して！

春原 正三郎（S47 法律卒）

三浦半島宮陵会設立15周年、おめでとうございます。設立当初から、全国の地域宮陵会での活動はトップクラスで、総会や新年会の他、ゴルフ、テニス、釣り、歩こう会を催され、それに広報紙を発行、ホームページも開設して、活動状況を公開。これを見て他の宮陵会には刺激を受け、本部主導でHP開設がされていきました。



この活動を継続されてこられたのは、古川前会長や鈴木会長をはじめ、多くの役員の皆様のコミュニケーションが濃く、打ち合わせ会を頻繁に開かれていると思われま

す。神奈川県宮陵会は、コロナ禍のため総会が開かれず休業状態ですが、今秋は3年ぶりに開催予定です。会員の高齢化が顕著になり、残念ながら逝去された方がみられ、参加者の減少が避けられません。3500余名の神奈川県在住者へ、総会の案内状を毎年発送していますが、在学時の住所をそのままにして転居している方もみられ、若手の発掘が難しい状況です。すべての地域宮陵会もお悩みでしょう。三浦半島宮陵会を手本に、活性化をはかりたいと思います。（神奈川県宮陵会事務局長）

三浦半島宮陵会設立15周年を祝して

指旗 博（S62 年応用化学卒）

三浦半島宮陵会設立15周年を迎えられるとのこと、誠にありがとうございます。



日頃、総会を始め、新年会やテニスの合宿にお誘い頂き、参加させて頂いております。先日も、箱根町で開催されたテニスの合宿に、参加させて頂きましたが、参加者の皆さんのテニスは非常にパワフルで、年齢を感じさ

せないほどです。

大学の箱根保養所での宴会では、皆さんといろいろと情報交換ができ、楽しく過ごさせていただきました。三浦半島宮陵会は、非常に活発に活動されており、見習うことばかりです。

我が藤沢宮陵会は、昭和59年設立で、今年で38年となりますが、なかなか、総会と箱根駅伝の応援以外の活動はできておりません。役員の人材育成と活動の充実が課題となっており、今後は、より多くの会員が参加しやすい環境を整えていきたいと考えております。今後とも藤沢宮陵会をよろしくご祈願致します。（藤沢宮陵会事務局長）

日頃の感謝と更なる結束力とご支援を

古川 勝彦（S40 年経済卒）

三浦半島宮陵会組織の発案、立上げより、現状の組織の醸成に、早や15年の歳月が過ぎ、感無量であります。



当会の現状を見るにつけ、お陰様で、ここに至るまでの間、皆様のご理解とご協力、関係者各位のご支援を賜り、心より御礼と感謝を申し上げます。

私の信念の中に、「築城3年、落城3日」があります。組織の在り方で、如何に組織づくりの難しさと、解体の危機を如実に表している含蓄のある言葉です。

また、よわい卒寿を迎え、サミエル・ウルマンの「青春とは心の若さである」にある「希望と信念にあふれる勇氣に満ちて、日に新たな活動を続ける限り、青春は永遠にその人のものである」は、心にしみる言葉であり、信条です。

宮陵会は母校神奈川県と共存する組織であり、強力で支え合い、協力し、母校の発展に寄与すべく、強く行動しなければならぬと思います。（本会初代会長・現顧問）

在学中の思い出など

岩本 善則（H3 年経済卒）

静岡県春野町（現浜松市）出身の私は、一浪して経済学部経済学科に入学した。

大学に入学した私は、早速、保土ヶ谷駅近くにある塾のアルバイトを始めた。このアルバイトは4年間ずっと続け、私の生活の支えとなった。



それとは対照的に、学校にはあまり行かなかった。ただ、大学3年から始まったゼミには毎回参加した。

私の専攻は、石田貞夫先生の貿易実務論だった。貿易には英語が必要ということなのか、毎週 Japan Times を買って、ニュース記事を読んでくるという課題が出された。

ゼミではこの記事は何が書いてあるのかと聞かれ、ドキドキしながら答えたのを思い出す。その他、コレポンの暗記や、石田先生の明治大学のゼミ生と一緒にいった税関見学なども思い出される。あつという間の4年間だった。

卒業後就職したスズキ株式会社を6年弱で辞めて、アメリカに約1年間留学したあと、前職とは全く関係ないソフトウェアに努め、現在は、貿易とも全く無縁の街の法律家として逗子市で行政書士業を営んでいる。ご相談のある方は遠慮なくご連絡下さい。(逗子市在住)

ゴルフと宮陵会との出会い

佐藤美佐男 (S49年貿易卒)

私が三浦半島宮陵会に入会をするきっかけになったのはゴルフでした。平成27年に横浜に引っ越してきてから、運動不足を解消するためゴルフ練習場に通い始めました。



そんな時、現役時代に吹奏楽部で同期だった田原氏より、三浦半島宮陵会のオープンコンペへの参加を勧められ、平成29年3月に初めて参加しました。その後平成30年の三浦半島宮陵会新年賀詞交歓会で入会申込書を提出し、正式に会員とさせて頂きました。その後は宮陵会の集い、ゴルフコンペ等で親睦を深めております。現在はゴルフ同好会の世話人である佐藤武氏のお手伝いをしながら活動しております。ここ数年のコロナ禍で、比較的感染リスクの少ないとされるゴルフが人気を集めている中、年2回(5、

10月)開催の三浦半島宮陵会ゴルフコンペを大いに盛り上げて行きたいと思っております。是非、皆様にはお誘い合わせの上ご参加下さる様お願い致します。(横浜市在住)

入会のきっかけは、恩師鈴木芳徳先生

名取 美佐男 (S45年経済卒)

私が横須賀市役所を定年退職した年(平成20年)に、前会長の古川さんから三浦半島宮陵会への入会のお誘いがありました。



退職後は組織も肩書もないただの人として、静かに過ごしたいと思っておりましたので、入会を迷っていました。

そんな折、鈴木先生から「三浦半島宮陵会で講演をすることになり、横須賀へ行くので面倒をみてほしい」と電話がありました。鈴木芳徳金融論ゼミ生として、卒業後もお付き合いをしておりましたので、お世話する為にも入会するしかありませんでした。

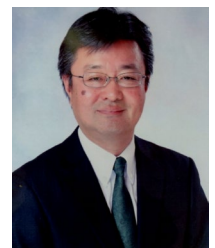
私にとって先生は、人生の選択の一つである、就職の際アドバイスをいただいた恩師であり、私が学生時代ボランティア活動をしていたこともあり、銀行でなく市役所を勧めてくれました。役所生活を全うできたのも、先生の人を見てのアドバイスと今でも感謝しています。

三浦半島宮陵会の入会のきっかけは不思議なもので恩師からの一本の電話から決めたものでした。(横須賀市在住)

バイクと学業成績

箕輪 義夫 (S63年貿易卒)

自分で言うのもなんですが、学業成績は良かった。ゼミ以外は、特に専門科目に興味を持ち勉強した記憶はないが、「優」の数だけはやたら多く、3年間で卒業単位もとった。



当時の授業は、出席重視型、年1回試験重視型、レポート重視型等いろいろあった。試験もノート持ち込み可、なんでも持ち込み可、教授の著書のみ持ち込み可等様々だっ

た。なんでも持ち込み可の試験で、授業に全く出ていない友達は、イミダス・広辞苑等をリュックに背負って試験に臨んだ。しかし問題は「授業の感想を述べよ」とだけ書いてあり、友達は試験時間中ずっと天井ばかり見ていた。授業を想像することは、試験勉強より難しいかもしれない。

試験勉強の嫌いな私は、出席重視型の授業をとりまくった。試験のないロシア語の授業で覚えた単語は、スパシーバ（ありがとう）のひとつだけだった。

私の成績が良かったのは、250CCのバイクのおかげである。入学してすぐに買ったバイクに、とにかく乗りたくて大学に通った。バイトの時間まで授業は時間調整。自由で楽しかった大学時代。私は8年後に65歳を迎える。近い将来の自由時間に何をするか、そろそろ考えようかと思う。（横須賀市在住）

思い返せば

山口 健次郎（S42年経済卒）

昭和19年茅ヶ崎で生まれた。78才の現在迄、どんな学園生活を送ったのか振り返ったこともなかった。

そして、語る程のエピソードも学園生活の中になくことに気付いた。

高校3年生の頃から、一年の半分位は葉山鑑釣漁港に係留しているドイツ人のヨットで生活していた。そんな生活は大学2年迄続き、仲間建新艇を造り江ノ島に拠点を移すことになったが、水上生活者のような日常は変わることはなかった。良い学生ではなかった。

通学しても校門を潜らず雀荘、西口でパチンコ、同級生のアパートで酒盛り。授業は代返や、出席票の提出を頼んでなんとかクリアー。見返りは、彼女を連れてくる彼らの為に、相模湾周遊のクルージングにせっせと舟を出すことだった。すれすれで卒業、親の紹介で入社した会社で社会人生活をスタートした。

昭和43年秋、ニューヨーク支店に転勤した友人から遊びに来い、ルート66を走ろうと誘われた。親に借金をし、500 円を握りしめシカゴに着いた。入ったステーキハウスで見慣れぬ仕事をしている二人がいた。何の仕事かと問うとペストコントロールと答えた。出会いであった。

翌年父が亡くなり、勤務先を退社した。昭和45年神大



卒業生三人で起業し52年になる。校門を潜らずに知り合った多くの友人、知人が私を支えてくれることになった。

現在、従業員70人程、平成27年旭日双光章を受章した折フロンティアクラブからお誘いを受け入会、宮陵会という校門を潜るようになり、私の学園生活がスタートした。

ペストコントロールとは、一般的に害虫駆除と呼ばれているが、コロナも施工対象になる幅広い業務を指す。そろそろ一般名になるよう認知の向上を願っている。（葉山町在住）

〈本会のホームページについて〉

アドレス <http://miurahanto.blog.shinobi.jp>



神奈川大学三浦半島宮陵会のHPのアドレスは上記のようになっていますが『神奈川大学三浦半島宮陵会』でも検索できます。今後とも魅力のあるHPにして参りますので、ご覧になってご活用ください。

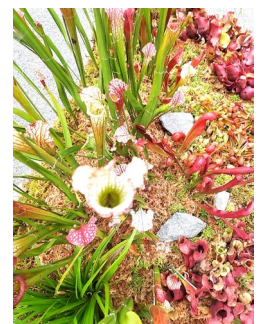
なお、SNS系の鈴木明子幹事さんの方では、TwitterとLINEを使って、会員や同級生の方々とやり取り等、情報共有に役立てられるようにして頂いています。Twitterはアカウントができれば「神大OB会@三浦半島」をフォローしてください。アカウントは「@kyuryo_miura」です。ご不明の点はメールで pangea139@ezweb.ne.jp 迄

～ 編集後記 ～

本号は、先日開催されました令和4年度三浦半島宮陵会の集い（総会）の様々、本会設立15周年となりましたので、10周年(第22号)の時のように多くの会員の方に、「学生時代の思い出、今頑張っていること」など、自由に書いて頂きました。お忙しい中、有難うございました。

今後も本誌を通じまして、会員相互の絆が更に深まることを念願して編集して参りますので、ご協力をよろしくお願い致します。

（塩塚定雄） 2022.9.3 発行



箱根湿生花園の食虫植物